■ 静岡医療コミュニケーション研究会

Sep. 2011 第13号

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

市民公開講演会

心をみがく

講師　武山清堂先生（秘在寺住職）

平成22年11月13日、静岡県男女共同参画センターあざれあに於いて公開講座を開催しました。

私は以前、先生の講演会で吹いてくださった尺八の音色に感動したので、今回もリクエストしました。講演会導入から素晴らしい尺八の音色『遠くへ行きたい』に乗せて、当会員であり元SBSアナウンサーの上藤さんの朗読が流れ、違う世界に連れて行かれそうになるほどの心地良さでした。

先生は常葉学園の幼稚園児から地域のご老人までと、幅広い年齢層の方達と関わりがあり、人としての生き方や相手を思いやる温かい心を持つ人になる為には・・・等、禅を通してであったり、講演であったり、作業を通しての物作りを行い地域の活性にも労を費やしておられます。又、保護司としても犯罪者の更正にもお努めされ、使命感をお持ちである事を強く感じました。

いつも穏やかで、笑顔が素晴らしい先生からの「心をみがく」という演題に相応しいお話を聞くことが出来ました。それと同時に、『飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ』の著者伊村和清さんの詩の中から、「"あたりまえのこと"こんなすばらしいことを、みんなは決してよろこばない。そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ」と聞いたとき、私も"あたりまえ"である今に感謝を忘れていることを反省いたしました。

最後に、先生の尺八の伴奏で『川の流れのように』を、全員で合唱しました。川の流れのような人生を、穏やかに身を任せながら送る事ができれば幸せだと思います。

静岡医療コミュニケーション研究会も発足から10年が経過しました。ボランティアではありますがその都度、良い緊張をしながら研修会を行っており、少しずつ心をみがきながら成長しているのではないかと感じております。

素晴らしい時間を武山先生と共に過ごす事が出来ましたことに感謝致します。有難うございました。（山田）

藤崎和彦先生によるSMC研修会

平成22年10月10日開催

平成20年にSMCの研修に初めて参加させて頂きました。その時、本学の模擬患者さん（SP）から「ＳＰとは、こういうものなんだ。自分達の目指す方向が見えた！」との感想を聞き、以来、毎年数名ずつが参加させていただいております。

SMCは会員の多くが医療従事者であり、「患者と医療者との相互理解を深めることを目的として組織された会」であると伺っています。その為、SMCには医療現場で対応に難渋する例について、医療者が患者さんとより良いコミュニケーションを築く為の研修会の開催依頼が多く寄せられているとのことです。今回はこのような研修会のためのシナリオ作成に参加させていただきました。会員同士が各々の経験、知識を基に積極的に意見を述べ合い、一からリアリティのあるシナリオを作成されている事に驚きました。それも短時間で！！そして、「思いやりを持って患者の心の中を感じ取り、細部にわたって考え作成しなければ、リアリティさは無い！」との言葉が強烈に耳に残りました。このシナリオをもとに、研修会が行われ、確実に成果をあげ、参加者になんらかの「気づき」をもたらすことができるのも、SMCの培ってこられた実力でしょう。

最近、私共もSMCをお手本にシナリオ作りを始めましたが、改めて難しさを感じています。私たちは医療従事者はおらず、また、学生教育のためのSP会です。この点でSMCと異なっておりますが、今後、研修会での経験と学びを会員で共有し、私たちの目的に合った独自のシナリオを作成して学生教育に参加したいと思っています。毎回、非常に良い刺激を頂き、もっともっと勉強する必要を感じられるSMCの研修会に参加させていただけることに感謝しています。

（大阪大谷大学ＳＰ会）

静岡市主催医療安全のためのコミュニケーション研修会

医療コミュニケーション研修会の開催にあたり

当研究会は平成19年の医療法の改訂による「医療に係る安全管理のための職員研修」としての医療コミュニケーション研修会に、毎年数か所の病院に講師と模擬患者を派遣しています。派遣先の病院は平成20年以降、保健所の公募により９か所になりました。

研修が初めての施設が多いため、まず保健所と派遣先病院担当者と当方とでの打ち合わせを行います。その中で研修の目的や内容について、病院担当者が十分に理解できるように説明します。この話し合いが非常に重要で、ここから研修が始まっているといっても過言ではありません。次に病院側から、現在の課題についての説明を受け、当該職員対象の研修にふさわしいシナリオの概要について検討が始まります。「シナリオは、リアルでなければならない。しかし、模擬患者は実在する患者個人であってはならない」という設定のもと、シナリオの中の模擬患者が作られていきます。

本年は広野病院とリハビリテーション病院への派遣となり、各病院の実際の事例を参考にしながら、シナリオを作成していきました。持ち帰ったシナリオは、研究会の定例会で模擬患者を演ずる会員に合わせて手を加えられ、何度もセッションの練習を重ねます。より完成度の高いシナリオに丁寧に練り上げられていき、当日の研修会に臨みます。「研修に参加してよかった」と一人でも多くの方に感じていただけることを期待しています。

（森田）

平成22年10月25日、静岡リハビリテーション病院でコミュニケーション研修会が行なわれ、私は模擬患者として出席しました。

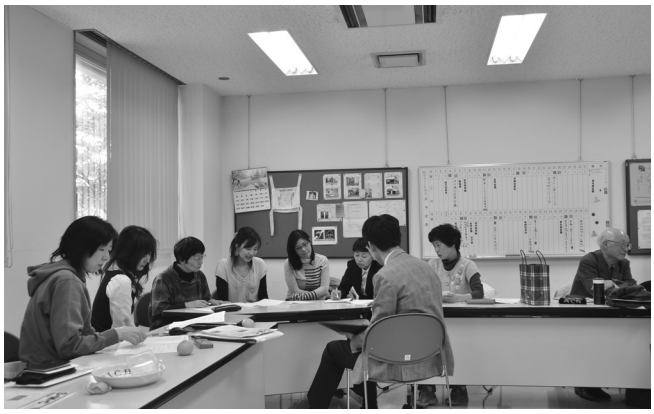
消灯後もテレビをつけていた患者が職員に注意を受けましたが、納得できずにナースステーションに行ってクレームを訴える場面です。「決まりだから」と一方的な言い方をするのではなく、「９時の消灯は早いですよね、皆で話し合ってみますね」と声掛けするベテラン看護師さんの共感の言葉に救われる気持ちがしました。また、参加者の中から、「何故そんなにテレビが見たいのか、その背景に一歩踏み込んで聞いてあげたら良かったのではないか・・・」という意見に感動しました。患者の思いや気持ちを聴いて共感することが、コミュニケーションにとって大切なことだと思いました。

（斉藤）

平成22年11月17日、静岡広野病院において保健所主催の医療コミュニケーション研修会が行われました。私が演じた患者は、60歳の主婦で1年半前に入院してリハビリ中です。要介護3、左麻痺、車椅子生活です。リハビリも成果が上がらず、やる気を失っています。本人は退院したいのですが、「アパートの２階に住む今の状態では介護できない」と夫から言われています。このような患者がどんな気持ちでいるかを受け止め、今後の方針を看護師と一緒に考えてもらうことが、この研修のねらいです。印象的だったのは２人目の看護師さんです。スタートしてすぐに、私の手を握り「○○さん、どうしたの！」と声をかけて下さり、最初からこのタッチングによるコミュニケーションに、心を開き本音を話すことが出来ました。痩せた私の手を包むポチャッとしたかわいい手、ふっくらとした体型に心まで包み込まれ、安心することが出来たのはきっと私だけではないでしょう。

言葉も大切だけど、タッチングも大切だということを強く感じました。

（扇みよ子）



今年がデビューの年でした！

平成22年11月８日は私のファシリテーターとしてのデビューでした。

今回の研修会が３回目となる静岡てんかん・神経医療センターの担当者（医療安全管理者）との事前打ち合わせをスタートに、当日はすべてを任され緊張したイベントでした。

看護師シナリオは「寝たきりの患者の病室の室温低下に対して、母親が看護室を訪ねる場面」です。緊張した看護師さんと患者の母親とのやりとりは、看護師の謝るところから始まり、母親の長い看病・通院生活などの訴えを聞く姿勢や、患者に寄り添った言葉かけなどがあり、最後に母親が「今後もよろしくお願いします」との言葉がでて、コミュニケーションの大切さが学習できたセッションでした。

次に、理学療法士用シナリオは「首が座らない患者のリハビリについて母親と理学療法士が面談する場面」です。初めての参加に理学療法士は緊張していましたが、基本的なリハビリの話から、母親の不安の聞き取りと医師との調整の話を柔らかな口調で会話し、母親としてどうあって欲しいかについても聞く事ができ、最後には、「焦らずリハビリをしていこう」と、母親の安心につながる心あたたまるセッションでした。

最後の参加者全員とのディスカッションでは、「何かあった場合は、ただ謝ればいいと思っていた。」また、「そうした方がいいといわれていたが、やはり相手のいうことを聴くことから始まることを知った。」「リハビリの場合もいろんな気持ちを持った人がいるのでコミュニケーションは大事だと感じた」等の意見が聞かれ、この会が研修を受ける側と我々主催した方とも実のあるものになったと感じました。さらに、私にとってはファシリテーターとして無事終了しほっと一安心した記念すべき一日でした。

（気田）

模擬患者デビューは、平成23年２月27日、浜松医科大学でのＯＳＣＥ。齢半世紀＋αにして久々の真剣勝負、大変に緊張いたしました。審査される先生方が予想以上に近く、また、メモを取る学生の手の震えを目の当たりにし、責任の重さを思い知らされました。鼓動が激しくなり、深呼吸をして落ち着く努力をしましたが、"○○さん"になりきるまでには至らなかったように反省しております。ややもすると質問以上の答えを返してしまいそうな自分を抑え、冷静に応じるよう努めましたが、なかなか難しいことでした。

決められた患者役を上手に演じられたのか不安ばかりが残りました。しかし、今回の経験を通しての何よりの収穫は、ＳＭＣの会員の皆さんとお近づきになれたことです。昨年春に入会して以来、少しずつお仲間に入れて頂いてはおりましたが、皆さんとともに勉強や練習を重ね、同じ患者役を務め、意見交換や感想を述べ合う中で、ぐっと距離が縮まりました。ＳＭＣは素敵な方ばかりで、出会い、学び、社会貢献etc.のかなう本当に魅力的な研究会です。御縁を頂けたことに改めて感謝いたします。今後は、OSCEの体験を積む一方で、オリジナルのシナリオを持てるようになりたいと思っております。

（上藤）

私は、浜松医科大学のＯＳＣＥで初めて模擬患者をさせていただきました。それまで、みんなでシナリオを読み込み何度も練習してきましたが、会場に行くと空気が張り詰めていて、試験独特の空気に緊張しました。

そこで、今までの練習で受けたアドバイスを思い出しました。まずは、役に入り込む。私は「○○（患者役の名前）」「35歳」と言い聞かせます。次に、聞かれた分だけ答える。それ以上でもそれ以下でもなく。でも、いざ始まってみると、学生によって会話の流れも全然違うし、メモを取る人もいれば、ペンは持たず試験中ずっと目を見て会話する人もいて、練習の通りに実践するのは難しかったです。控室に戻ると袴田先生をはじめ、メンバーが私の感想を聞き、疑問に答え、一緒にシナリオを再度確認して気持ちを落ち着けてくれました。

驚いたのはＳＭＣメンバーのプロ意識です。会場までの道中はまるで修学旅行のような賑やかさだったのに、試験会場ではさっと切り換えて模擬患者になりきった姿には、感動するとともに尊敬しました。実際に自分で体験して、ようやく模擬患者の意味、練習の意味がわかった気がします。ＳＭＣの活動がますますおもしろくなってきました。

（扇麻衣子）

平成22年度　SMCの活動

月　　日	活　　動　　内　　容
平成22年４月13日	ＳＰ研修会への講師およびSP派遣　（大阪大谷大学薬学部）
４月18日	平成22年度　ＳＭＣ総会　（中央福祉センター）
５月18日	コミュニケーション研修会への講師およびSP派遣　（三島共立病院）
６月３日	GSK医薬品開発ワークショップへ参加
７月31日	CRC研修への講師およびSP派遣　（臨床試験受託協会主催：北里研究所病院）
９月25日	CRC特論への講師およびSP派遣　（静岡県立大学）
10月10日	SMC研修会　（中央福祉センター）
10月25日	研修会への講師およびSP派遣　（静岡リハビリテーション病院）
10月26日	研修会への講師およびSP派遣　（豊橋創造大学看護学部）
11月８日	研修会への講師およびSP派遣　（静岡てんかん神経医療センター）
11月13日	市民公開講演会「こころをみがく」　（あざれあ）
11月17日	研修会への講師およびSP派遣　（静岡広野病院）
12月11日	OSCEへのSP派遣　（静岡県立大学薬学部）
平成23年２月２日	浜松医科大学「医学概論」へのSP派遣
２月19日	新人看護師研修への講師およびSP派遣　（富士宮市立病院）
２月27日	OSCEへのSP派遣　（浜松医科大学医学部）
毎月１回	ＳＭＣ　定例会開催　（中央福祉センター）

平成16年から、富士宮市立病院の新人研修に模擬患者として協力しています。研修方法は、参加者が６グループに分かれ、同じシナリオで同時に新人看護師とセッションを行ないます。終了後、グループごとに感情や行動変容の意見交換を活発に行います。

この研修は新人看護師教育を目的としていますが、セッションをそばで見聞きしている先輩看護師達にも感情変化が沸き起こり、その結果、参加しているすべての看護師達が、研修成果をみいだし効果的な研修に繋がっていると思います。

病院は毎年研修を継続していますので、年々看護師さんたちのコミュニケーション技術や接遇の向上が感じられ、模擬患者として参加できるのは楽しみでもあり、責任を痛感しています。（赤堀）

連絡先

静岡医療コミュニケーション研究会　　代表　森田　みつ子

〒420-0882　静岡市葵区安東1-22-25　　TEL・FAX　054-248-0348

E-mail　mrtmtk2000@hotmail.com　　ＨＰ　http：//www.smc-jp.com/